



向上無限

校訓 生徒一人ひとりの可能性は無限大!



学校便り
校長 仲盛康治
『心一つに』
『誰かの笑顔のために』
『明日が待ち遠しい学舎』

第69回全琉小中高図画作文書道コンクール作文の部 中一の部 最優秀作品



今できることを
城北中学校1年仲尾次美佑

金色のトーチにともされた炎が上下に優しく揺れる。5月の空に光る祖父の笑顔。コロナの影響で賛否両論がある中、沖縄でも聖火リレーが始まりました。入場者や走るコースが制限されましたが、祖父の応援をするために私は、会場に足を運ぶことができました。

真新しい白いユニホームを着て、右手にトーチをかかげ、嬉しそうに走る祖父の姿を私は誇らしく思いました。

祖父の年齢は84歳、スマートフォンを使いこなし、パソコンも得意でブログを書いています。マスターズ陸上年代別沖縄県記録保持者でもあり、NANAマラソンでは、1985年の第1回大会から連続完走を続けています。

私は、小さい頃からそんなパワフルな祖父を見て育ちました。コロナ禍や年齢など様々な制限を理由にすることなく、いつも元気に過ごしている祖父は、今でも私が小さかった頃見ていた祖父のままです。歳を重ねても常にベストの結果を出す努力を続けている姿には、本当に感心させられます。聖火ランナーになることも夢の一つだと以前から話してくれていました。重そうにそれでも笑顔で手を振りながらコースを走る祖父を私はまぶしい思いで見つめていました。同時にコロナ禍の現状を「できない」理由にはせず、目標や夢に迎えるような大人になりたいと、夢を叶えた祖父を見て改めて思いました。

祖父の聖火ランナーのこともあり、家族で心待ちにしていた2021年7月24日。テレビ画面に映し出される第32回夏季オリンピック東京大会の開会式。私は、テレビの前で購入したばかりの世界地図を広げました。

オリンピックに参加する全ての国の位置を確認したいと思ったからです。



嬉しい報告!

十月下旬、学校に嬉しい連絡がありました。城北中学校の生徒から親切にして頂いたので感謝したいとの内容。

電話の主は離島にすんでいる方、久しぶりに孫に会うためにモノレールを利用して石嶺駅で降りたときの事です。以下は原文のまま

「今日の夕方、石嶺駅から城北二丁目園に行く為に中学生に道を尋ねたらみんなお利口さんでした。最後に尋ねた男の子は園まで案内してくれました!! ありがとうございます。礼儀も良く道で行き交う大人達にちゃんと挨拶していましたよ」
さりげない立ち振る舞いが、学校や地域の評判を上げる事例ですね。すばらしい城北生に感謝、感謝です。

先頭はオリンピック発祥国のギリシャ、つづいて難民選手団です。そしてアイスランド、アイルランド、アゼルバイジャンと50音順で選手団が登場します。入場に合わせてアナウンサーが各国の注目選手やその国や地域の大まかな場所などの情報を伝えてくれました。私は、その情報を基に、世界地図の中から出場国を探していきました。アメリカ合衆国や中華人民共和国、インドなどはよく耳にする国名なのですぐに地図上で見つけることができました。しかし、地中海近くの国が密集している場所やアフリカ州などは一つ一つの国の面積が小さかったり、コンゴ共和国とコンゴ民主共和国、ルワンダとウガンダなど似たような国名があったりして探すのが難しかったです。南アジアのネパール、ブータン、パキスタンなどは私にはなじみがなく、その地方についての知識も全くなかったので今回、初めて知ることができた国々でした。

世界に多くある国があることは私も知っているつもりだったのである程度は簡単に場所を見つけることができると思っていました。



向上無限

校訓 生徒一人ひとりの可能性は無限大!



学校便り
校長 仲盛 康治
『心一つに』
『誰かの笑顔のために』
『明日が待ち遠しい学舎』



しかしざ始めてみると、初めて名前を聞く国名が多くなかなか探し出せず、入場するスピードについて行くのがやっとでした。途中でやめようとも考えましたが、大変な努力を重ね、夢、目標としたオリンピックに立つ選手達を応援したい、まだ知らない国を知りたいという気持ちの方が大きく、最後まで探し続けました。約3時間大きな世界地図を旅した時間でした。

この夏、できることならオリンピックが開催される東京へ行きたかった、オリンピック開催の躍動にあふれる空気を共に味わいたかった、私たちはコロナ禍で様々な活動を制限され、やりたいことが思うようにできなくなってしまいました。しかし、そんなコロナ禍だからこそできるようになった事もたくさんあります。ずっと家にいることで今までじっくりと見たことのなかったオリンピックを観て様々な国に興味を持つことができました。また、いろいろなスポーツのルールがわかるようになり家族で観戦し、楽しむこともできました。さらに「知りたい」と思ったとき、情報収集の方法も広がりました。今まではインターネットで軽く調べるだけでしたが、自宅でのフリーな時間が増えたことで、新聞を広げ、地域の情報を集めたり、家にあった本を読み返したり、より多くの知識を得ることもできました。これまで通りの生活ができなくても「できない」で終わらせるのではなく、いかにできることを見つけ、それに近づくための工夫をするかが大切だと実感しました。外出制限のため、買いたい物が手に入らないなら、ネットショッピングという手もあります。部活動ができないなら家でできるとトレーニングを自分で考え、実践するのも良いでしょう。

工夫をすれば私たちはもっと成長し輝くことができるはず。オリンピック選手の皆さんも、私たちと同じコロナ禍にありながら、表面には目に見えない工夫、努力を努力を重ねていたはず。だからこそメダル獲得に喜ぶ涙があり、悔し涙があったのだと思います。そのどれもが輝いていたことは言うまでもありません。

みなさんもぜひ、自分のやりたいこと、やってみたいことを工夫をこらして取り組んでみませんか？きっと今まで以上に自分の可能性は広がるはず。です。

この夏、世界地図を満喫したように、私は、これからも今できることを考え、工夫し、行動に移していけるよう、祖父に負けないくらいの努力を続けていきたいです。

仲尾次嗣明さん(84) 那覇市



生涯現役の実現と希望の象徴として、走りたかった。高齢者に元氣と希望の光を灯すことができれば幸いだ。

生涯現役！ 継続は力なり！
まだまだ 挑戦し続けるぞ！